

## 甲子園大学学士課程及び大学院教育課程における 3 つの方針 －学位授与、教育課程編成・実施、入学者の受入れ－

### ○教育方針

「勤勉努力、和衷協同、至誠一貫」の建学の精神に基づいて、人格の完成を目指し、真理と正義を愛し、個人の価値を尊び、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた健全かつ有能な人材を育成することが、本学の教育目的である。この目的を達成するため、広く知識を授けるとともに、深く専門の学術を究明させて、知的・道徳的・応用能力を発揮させることを教育方針とする。

### 1. 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

#### (1) 学部

##### **栄養学部**

栄養学部は、次に掲げる能力を有する学生に「学士（栄養学）」（栄養学科）、「学士（フードデザイン学）」（フードデザイン学科）の学位を授与する。

- a 学則に定める所定の期間在学し、各学科の教育理念及び教育目標に沿って設定した授業科目を履修して、卒業要件を満たす所定の単位数を修得していること。
- b 食と栄養を通じて人類の福祉に貢献しようとする意志を有し、それを実現する幅広い教養と専門的知識と技能をともに修得していること。
- c 社会生活に必要な基礎的教養とコミュニケーション能力を有し、社会の変化に対応できる総合的判断力を有すること。

##### **【栄養学科】**

- ① 管理栄養士として、ヒトの健康の維持増進を栄養・食事の面からサポートできる能力を有すること。
- ② 栄養・食生活などの専門的知識をわかりやすく相談者に説明、指導できる能力を有すること。

##### **【フードデザイン学科】**

- ① 食資源の利用・生産、食品成分の働き食品の安全性、食品の開発・加工・製造、食品の流通・販売などに関する基礎的な知識や技術を修得し、食品をデザイン（企画・開発）する能力を有すること。
- ② 栄養士として、食を通じて、人々の栄養や健康の面から社会に貢献することを意識し、自ら行動できる能力を有すること。

## 心理学部

「心理学を学ぶこと」によって、「学んだ心理学を社会生活に応用できるようになること」を目指し、次に掲げる4つの力を有する学生に「学士（心理学）」の学位を授与する。

### 【現代応用心理学科】

- a 心理学を中心とした科学的視点から人間の心理や行動のもつ特性を知識として学び理解する力があること。
- b 方法論の学びから数量的スキル、情報リテラシー、論理的思考力等の汎用的技能力を持つこと。
- c 演習や専門インターンシップで市民としての社会的責任やチームワークなどを学ぶことを通して社会人としての態度・志向性を持っていること。
- d 「卒業研究・論文」を通して、自らが立てた課題をそれまでに習得した知識・技能・態度等を活用して解決する能力を身に付け、総合的な学習経験と創造的思考力を修得していること。

## (2) 大学院

### 栄養学研究科

カリキュラム・ポリシーに示した内容の能力を身につけ、かつ、所定の単位を修得した大学院生に対して、修士（栄養学）又は博士（栄養学）の学位を授与する。

#### 【博士前期課程】

- a 修了時に備えるべき能力  
食品及び栄養に関して体系的に身につけた専門的なものの見方や専門的技術を生かし、社会に還元できる能力を備えていること。
- b 学位の授与を認定する方法  
修士論文の審査は、主査及び副査による論文審査、公開の論文発表会と審査委員による口頭試問を行い、修士の学位授与について可否を判定する。

#### 【博士後期課程】

- a 修了時に備えるべき能力  
専門領域のより深い知識と思考力を身につけ、自立した研究者、指導者としての能力を身につけていること。
- b 学位の授与を認定する方法  
博士論文の審査は、主査及び副査による論文審査、公開の論文発表会と審査委員による口頭試問を行い、博士の学位授与について可否を判定する。

## 心理学研究科

### 【博士前期課程】

- a 臨床心理学又は心理学を中心とした高度な専門知識について深い理解を持っていると同時に心理学以外の領域についても学び、物事を専門的に考えるために役立てることができること。  
(知識)
- b 臨床心理学又は心理学の知識を通して人間と社会への深い理解、さらに、社会人として求められる倫理観や責任を持ち、他者とともに専門職業人として協働できる能力を有していること。  
(態度)
- c 臨床心理学又は心理学の知識を通して他者とのコミュニケーションスキル、データや資料を読み取る能力、情報処理能力などの技能を獲得していること。  
(汎用性技能)
- d 総合的な学習経験と創造的な思考力の集大成として修士論文を提出していること。

### 【博士前期課程】

- a 心理学に関する最新の知見と考え方、対象としている社会的な問題とその周辺的な課題について専門的な知識に基づき、科学的な探究が行えること。  
(知識)
- b 心理学についての未開拓、未解決な課題を解決するための研究を行い、関連する学問分野や社会に新しい知見を提供できるようになること。  
(態度)
- c 心理学について、独自の研究計画・方法・知見を見出し、心理学研究分野に新しい知見を提供できること。  
(技能)

## 2. 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

### (1) 学部

#### 栄養学部

- a 幅広い教養を身につけ、コミュニケーション能力、判断力、社会貢献に対する意識を養うために、教養科目を配置する。
- b 各学科の提供する専門科目を通じた専門的知識の修得と論理的思考を行う力を身につける。
- c 豊かな人間性により他者の心情を共感理解し、自ら情報を発信し円滑なコミュニケーションを通じて指導できる力を身につける。

### 【栄養学科】

- ① 管理栄養士として、ヒトの健康の維持、増進を栄養・食事の面からサポートできる

能力を養う科目を配置する。

- ② 栄養・食生活がヒトのからだに及ぼす影響について修得し、専門的知識をわかりやすく相談者に説明、指導できる力について学ぶ科目を配置する。

#### 【フードデザイン学科】

- ① 食材の生産、食品成分の働き、食品の開発・加工・製造、食品の流通・販売などに関する知識が修得できるように、年次進行に合わせ体系的に科目を配置する。
- ② 食品のデザイン（企画・開発）を自ら立案、実施できる能力を養うために講義・実験実習などの専門科目を配置する。
- ③ 栄養士として、人々の健康の維持増進を食事・栄養の面からサポートできる能力を養う科目及び社会で活躍できる実践力を養う実習科目や学外実習を体系的に配置する。
- ④ 学修成果を集大成し、評価する科目（卒業研究）を配置する。

### 心理学部

#### 【現代応用心理学科】

- a カリキュラム編成において心理学に関する知識、論理的思考、方法論、応用する力を習得できるように、初年次から年次進行に伴い段階的に高度化して学べるように専門科目の体系化を行っていること。
- b 1年次教育において、教養教育による一般的知識の習得とともに、心理学を学ぶことへの動機付けを確かなものにし、大学での学びの基礎となる読解力や文章表現、発表する力の習得のために少人数の「基礎ゼミ」を設けていること。
- c 2年次教育において、心理学についての基礎的な知識と方法論を習得し、3年次に向けたコースの概論を必修としていること。
- d 3年次教育において、「臨床発達心理学」「臨床心理学」「健康・スポーツ心理学」「社会心理学」「犯罪心理学」のコースに分属し、それぞれの応用心理の分野の領域について深く、幅広く考えることのできるカリキュラムを用意していること。
- e 各自の専攻コースに関する知識を社会でどのように生かしていくかを考えるキャリア形成のためにインターンシップを設けていること。
- f 4年次教育において、在学中の学習成果を集大成する仕組みとそれを評価する仕組みとして、卒業研究・論文を必修としていること。

## (2) 大学院

### 栄養学研究科

#### 【博士前期課程】

現代社会が抱える食品及び栄養に関する多くの課題の解決に対して、専門的な知識と応用力を身につけ、食品栄養学の分野に貢献しうる実践的で行動力があり、創造的

思考力を持つ人材を育成するためのカリキュラムを編成し、実施する。

**【博士後期課程】**

栄養学及び食品学を総合的に修め、大学での教育研究者、企業や各種研究機関において自立して研究を遂行できる能力を有する研究者、管理栄養士の活動を支える指導者及び教育者、地域社会においてリーダーシップを発揮し、健康づくりシステム等を開発し、創造的に推進できる実践的指導者などの育成を目的としたカリキュラムを編成し、実施する。

**心理学研究科**

**【博士前期課程】**

- a 臨床心理学と心理学コースに関わる現象について、科学的に探究し、問題を発見・解決していける高度専門職業人を養成するために、講義科目、演習科目、実習科目からなるカリキュラムを配置している。
- b 自らの専門に対し複眼的な思考と視点を持ち、柔軟に取り組むことができるように「インターディシプリナリー研究」科目を配置している。
- c 高度専門職業人として幅広い知見をもつことができるように、専門領域の科目以外にも日本文化、国際文化に関する科目を選択できるカリキュラムを配置している。
- d 修士論文は、演習科目において実施した研究をもとに新たな知見について公表することを必修としていること。

**【博士後期課程】**

- a 指導者・研究者として自立していくための高度な知識と技術の習得、態度の形成に必要なカリキュラムを配置している。
- b 博士論文作成に向けた研究指導を第一の目的とするが学会発表や論文投稿についても積極的な指導を行う。
- c カリキュラムの学びのほかに、TA・RAとしての機会を与え、指導者・研究者としての経験を積むことを奨励する。

3. 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

(1) 学部

**栄養学部**

**【栄養学科】**

(イ) 教育方針および受け入れの基本方針

医学的、食品学的基礎の上に、栄養学の専門理論と技術を修得・実践することで、管理栄養士、食のマネジメントのプロフェッショナルを育成する。

(ロ) 求める学生像

栄養学関連の自然科学の基礎学力を持ち、人々の栄養改善・健康増進に貢献した

いという意欲と熱意を持つ人物を受け入れる。

#### 【フードデザイン学科】

(イ) 教育方針および受け入れの基本方針

食品学・栄養学の基礎の上に、栄養士として力を身につけ、広範な食に関わる分野の専門知識と技術を修得・実践することで、健康のための食を創るプロフェッショナルを育成する。

(ロ) 求める学生像

十分な意欲と基礎学力を持ち、食に関する諸課題（特に食品の開発、食の安全、わが国の食料問題等）を解決し、食を通して健康増進に寄与したいという明確な目標を持つ人物を求める。

#### 心理学部

##### 【現代応用心理学科】

(イ) 教育方針および受け入れの基本方針

自分を含め人間に強い関心を持ち、社会と人間の相互作用、人間のこころと行動のメカニズムを解明することを通して、人との接し方や人の援助について、優れた専門知識を持つ人材を育成する。

(ロ) 求める学生像

基本的な知識、理解力、思考能力などを有し、現在社会における人間の心の動きが引き起こす問題を理解し解決したいという希望をもつ人物や、心理学を応用して、子供や高齢者・障害者の支援など社会に貢献したいと願う人物を受け入れる。

## (2) 大学院

#### 栄養学研究科

##### 【博士前期課程】

栄養学と食品学の 2 領域を設け、栄養学領域は基礎栄養学と臨床的な分野を含む応用栄養学の 2 部門から成り、幅広く現代社会に対応した教育・研究を行う。食品学領域は高度な機器分析を活用する食品分析科学と食糧資源の枯渇に対処する食資源利用学の 2 部門から成り、食品の機能性と安全性と食糧資源の確保を追求する教育・研究を行う。

これら 2 の領域を基盤として食品栄養学を習得し、専門的な考え方や専門技術を生かして社会に貢献することを目指す人を求める。

##### 【博士後期課程】

基礎栄養学、応用栄養学、食品分析科学、食資源利用学の 4 部門を設ける。博士前期課程で修得した知識、技術および考え方を基盤に各部門においてより深い知識と思考

力を身につけ、大学や企業および各種の試験研究機関において活躍できる自立した研究者および教育者を目指す人、さらに地域社会においてリーダーシップを発揮し、健康づくり運動等を積極的に推進できる能力を有し、実践的な指導者を目指す人を求める。

#### 心理学研究科

##### 【博士前期課程】

栄養学と食品学の 2 領域を設け、栄養学領域は基礎栄養学と臨床的な分野を含む応用栄養学の 2 部門から成り、幅広く現代社会に対応した教育・研究を行う。食品学領域は高度な機器分析を活用する食品分析科学と食糧資源の枯渇に対処する食資源利用学の 2 部門から成り、食品の機能性と安全性と食糧資源の確保を追求する教育・研究を行う。

これら 2 の領域を基盤として食品栄養学を習得し、専門的な考え方や専門技術を生かして社会に貢献することを目指す人を求める。

##### 【博士後期課程】

基礎栄養学、応用栄養学、食品分析科学、食資源利用学の 4 部門を設ける。博士前期課程で修得した知識、技術および考え方を基盤に各部門においてより深い知識と思考力を身につけ、大学や企業および各種の試験研究機関において活躍できる自立した研究者および教育者を目指す人、さらに地域社会においてリーダーシップを発揮し、健康づくり運動等を積極的に推進できる能力を有し、実践的な指導者を目指す人を求める。